学校教育計画（令和６年度～令和９年度）

学校名	県立舞岡高等学校	課程・学科 教育部門・学部	全日制・普通科

１　学校のミッション

全日制普通科の高校として、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に応えるため、学年制によるカリキュラム･マネジメントに学校全体で取り組み、学力の育成、豊かな人間性や社会性を培い、社会的･職業的に自立することを めざした学校づくり に取り組む。教育課程については、共通教科･科目を中心に、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえながら、普通科として適切な編成を行う。これまで、自律 ･共同･創造･開拓･実践を目標とし、伝統・文化の継承･普及に取り組んできた。また、自ら課題を発見し解決する力をはぐくみ、主体的に学ぶ意欲を高めることをめざした不断の授業改善の実施等、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けて、教育活動の充実に取り組んできた。

引き続き、「教育課程研究開発校（『総合的な探究の時間』（ SDGsをテーマとした展開）」として研究開発に取り組み、その成果を地域の県立高校に様々な機会を設けて普及する。

２　学校教育目標

○　生徒の資質・能力を向上させる魅力ある授業を展開し、確かな学力の向上を図る。
○　規範意識を醸成し、自他の大切さを認める豊かな人間性、社会性の育成を図る。
○　生徒一人ひとりに応じたきめ細やかなキャリア教育の推進をとおして社会的・職業的な自立を図る。
○　地域との協働・連携により、共生意識の育成を図り、地域に愛される学校づくりを推進する。
○　快適な学習環境を整備し、生徒が安全に安心して過ごせる学校づくりを推進する。

３　計画策定時点での課題

○　自ら考える力を強化し、学びに向かう力を育む学習指導の実践とそのための組織的な授業改善については、これまでも取り組んできた。今後は「強化する」イメージで取り組みたい。
○　18歳成人を念頭に置いた生活指導を実践し「良き大人」として、社会に貢献できる人材を育成するという点につては、今年度以降、本格的に取り組みたい。学校のルールを守り仲間を尊重した生活を実践させ、一人でも多くの「良き大人」を育てたい。
○　生徒自らがライフプランを形成できるように、自主的に取り組める３年間のキャリア教育を常に見直し、指導を強化については、特に早期の進路決定を促せるようにしたい。
○　成功・失敗、勝・負等の結果以上に、有意義な過程を体験させることのできる指導を行ってきた。今後は、成功・勝等による達成感や自己肯定感を高める指導も行いたい。
○　働き方改革は、まず、一人ひとりがON・OFFにメリハリをつけることのできる職場環境を構築することから始めたい。

４　４年間の目標と主な方策

	視点	４年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	○主体的な学びを強化し、学力を向上させると共に、思考力・判断力・表現力を深め、社会に貢献できる人材を育成する。 ○探究的な学びを取り入れた学習指導により、生きる力を育み、自分をより良く変える力を培う。	・自ら考える力を強化し、学びに向かう力を育む学習指導の実践とそのための組織的な授業改善。 ・学力の向上を図り、生きる力を育むことのできる様々な手立てを研究し実践する。
2	（幼児・児童･） 生徒指導・支援	○18歳成人を念頭に置いた生活指導を実践し「良き大人」として、社会に貢献できる人材を育成する。 ○生徒の主体的な活動を指導、支援し、他者と協働する意識を強化し、豊かな人間性と健全な社会性を育む。	・ルールを守り、マナーを大切にすることに留まらず、「良き大人」として安全で安心な生活環境を守ることのできる力を養う。 ・成功・失敗、勝・負等の結果以上に、有意義な過程を体験させることのできる指導、支援を行う。
3	進路指導・支援	○「進学先の向こうにある社会」を具体的に意識し、自主的に職業、生き方、社会へのかかわり方について生徒の理解を深めさせ、生徒の希望する進路実現に向けたキャリア教育を推進する。	・生徒自らがライフプランを形成できるように、自主的に取り組める３年間のキャリア教育を常に見直し、指導を強化する。 ・大学入学共通テスト、高大接続改革に対応できる体制を構築し、不安のない進路実現を目指す。
4	地域等との協働	○新たな手立てを講じ、より効果的な地域連携を実践する ○分教室との連携を更に深め、共生社会に資する力を育む。 ○同窓会、地域、行政等と連携し、双方向での支援が実現できる体制を研究する。	・これまでの実践を精査し、地域が主体的に連携を進める体制を構築する。 ・引き続き、分教室との連携を深める。 ・同窓会と地域との連携を作り、手厚い双方向の支援体制を実現する。
5	学校管理 学校運営	○引き続き、不祥事ゼロを実践する。 ○働き方改革について、組織的に考える。 ○引き続き、生徒の安全で安心な諸環境を維持または改善する。	・不祥事防止研修会だけに留まらず、同僚性を深める。 ・一人ひとりがON・OFFにメリハリをつけることのできる職場環境を構築する。 ・老朽化した箇所について、早めに改善策を講ずる。